



ສາທາລະນະລັດ ປະຊາທິປະໄຕ ປະຊາຊົນລາວ
ສັນຕິພາບ ເກະລາດ ປະຊາທິປະໄຕ ເອກະພາບ ວັດທະນາຖາວອນ



ສະມາຄົມຊ່ວຍເຫຼືອເດັກນ້ອຍພິການ (ສຊດພ)

AID CHILDREN WITH DISABILITIES ASSOCIATION (ACDA)

「ラオスの障害児へ90台の車椅子贈呈プロジェクト報告書」



I 達成すべき目標

ラオスの障害児がラオス社会で健常児と同じように暮らせるようになる

II 具体的目標

ラオスの障害児が暮らしやすくなる補助的道具を支援する

III プロジェクトの背景

2015年のラオス国勢調査によるとラオスの障害者数は176,857人で全人口の14%だが、2005年の56,727人より増大している。障害者の増加に加えて、女性及び民族間の差別という複雑な問題もある。政府は統合教育の必要を認めており、その推進のための取り組みが始まっている。

障害者の教育は驚くほど遅れており、6歳以上の障害者の41%は読み書きができない。中等学校に進む障害者は19.5%にとどまり、16歳以上の障害者で高校教育あるいは専門教育を受けているのは6.6%に過ぎない。また障害児に適切な教育が行われているかということと障害児に対する訓練もそれを行う先生が不足していることが障害児教育への大きな壁となっている。

障害者の家庭環境については、都市部に住む障害者の70~80%、農村部では65~70%がその生活を主として家族に頼っている。職業に就いて収入を得ているのは全体の25~35%に過ぎない。その背景に特別支援学校や滞在型介護施設が不足していて現在学校に通うことのできない障害者を受け入れる体制ができていないという事実がある。特別支援学校は国の統制下にはないため予算不足で教材や教育の質も貧しいという状況にある。また、無認可の教育施設は経営を成り立たせるために障害者の家族から授業料を取ることも多い。

ACDAは障害をもつ子どもの支援を特化した数少ないラオスのNPO団体で、持続可能な発展のためには子どもの人権こそが人間の基本的権利と考えている。ACDAは、99校の統合教育を行っている学校の障害児が学習する権利を得られるよう支援している。その学校の地域は、Vientiane Capitalの6地区、Vientiane Provinceの3地区、Oudomxay Provinceの3地区、Louangprabang Provinceの2地区、Xiengkhouang Provinceの2地区、Bolikhamxay Provinceの1地区、Savannakhet及びChampasak Provinceのそれぞれ2地区に及んでいる。

IV 活動内容

- (1) Vientiane Capitalにある労働福祉省のゲストハウスで「海外に子ども用車椅子を送る会」による90台の子ども用車椅子の贈呈式を開催した
- (2) 90台の車椅子をVientiane Capital、Vientiane Province、Oudomxay Province、Louangprabang Province、Xiengkhouang Province、Bolikhamxay Province、Savannakhet Province、Champasak Provinceの各地区に運搬し、90人の子ども

に届けた

- (3) 車椅子を供与した子どもの家庭を個々に訪ね、使用状況、環境の変化等について面接し、評価表としてまとめた

V 贈呈の仕方

贈呈式には車椅子を供与される子どもとその家族たち、政府の関係各省の高官、日本大使館と日本のNPO（車椅子を送る会）からも関係者が列席した。

ACDAは支援する各地区のACDAのコーディネーターと協力し車椅子の写真と大きさについて各障害児の家庭に連絡した。

車椅子の供与後、ACDAは車椅子使用のモニタリングを行い、車椅子が実際にどのような活用されているか、子どもたちやその家族にどのような効果がもたらされたかを検証する。

VI 贈呈に関わった人々

贈呈式：参加者は60名余であった。

車椅子の供与：ACDAのチームが90台の車椅子を一人一人の障害児に届けた。

モニタリング：ACDAのチームが90人の車椅子使用者にモニタリングを行った。

VII 時間及び場所

贈呈式：2017年3月7日

車椅子の供与：2017年3月12～14日、5月12日、7月10～11日、9月7日

モニタリング：2017年10月21～28日

VIII まとめ

1. 障害をもつ子どもが車椅子と出会うということは、移動の手段を手に入れ、生活の質が向上するだけでなく、地域社会に出ていくことも意味する。そしてそれは家族のそれまでの負担を大いに軽減することになる。また、それぞれの子どもに合った車椅子を供与することはとても重要で、適切な車椅子を用いることで正常な座位が保たれ、筋肉や骨の成長を促すことができる。車椅子の使用によって可能になったものには「家の外に出て日光浴をする」「学校や病院に通う」「地域の人と交流する」などがある。

2. 車椅子を供与された子どもの家庭はみな、これまで車椅子を買う余裕はなく、初めて手にした車椅子をたいへん喜んでいる

3. モニタリングにより、子どもたちの生活の質が大きく変わったことがわかる。

以上

活動の様子

